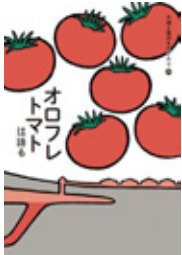


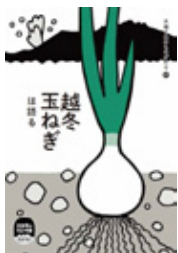
冬に育つ「大地の恵み」

寒さの厳しい季節となりました。洞爺湖有珠山ジオパークのエリアでは、気候や大地の特徴に工夫を加え、冬の間も美味しい「大地の恵み」が育てられています。



オロフレトマト（壮瞥町幸内地区）

オロフレ山の麓にある弁景温泉から65℃の源泉を引き、温かい栽培用ハウスで育てられたトマト。冬は病害虫の心配も少なく、農薬や化学肥料の使用を抑えられるもの大きなメリットです。赤く熟して甘味が増した2月頃から出荷されます。



越冬玉ねぎ（伊達市）

有珠山の噴火で噴出した軽石は、土の中の余分な水分を吸収します。水はけの良い畑と、少ない降雪量を活かし、秋まきの玉ねぎを越冬させて糖度と栄養を高めた「越冬玉ねぎ」は、6～7月に収穫されます。

ホタテ（豊浦町・洞爺湖町）

噴火湾では、2月末から4月上旬にかけ、東側沿岸から親潮が流れ込み、沿岸で川の水と合流して植物プランクトンが大発生します。この豊富な植物プランクトンを餌にして、ホタテは大きく育ちます。



地元の食材には、大地の成り立ちや、この地域ならではの物語が隠れています。ぜひ、身近なところからジオパークの魅力を味わって下さい。

講演会

『500年前の柱穴から見えてきた アイヌ住居の移り変わり』

伊達市有珠で発掘された500年前のアイヌの住居（チセ）跡からは、これまで博物館等で紹介されてきたチセとは異なる姿が復元されました。発掘調査や復元住居模型の製作過程から見えてきた、有珠チセの特徴を紹介します。



2018年の発掘調査



柱の穴から復元された模型

開催日 2020年 3月8日（日） 14:00～15:00

会場 だて歴史文化ミュージアム（伊達市梅本町57-1）

講師 歴史的地域資産研究機構 れきけん
小林 孝二 氏

申込 申込不要・参加無料

問合せ だて歴史文化ミュージアム TEL (0142) 25-1056

主催 北海道博物館・伊達市教育委員会

後援 公益社団法人伊達アイヌ協会・洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会